

「山ゆりの会」のことなど

―農村演劇研究の意義は何か―

鶴巻 さち子

1 東田尻に「山ゆりの会」という演劇サークルがあり、五月五日に角間で二つの劇を上演しました。若い熱意が一月余の研究で早くも初発表会を開いたのは、演劇には非常に多くのエネルギーが必要で、劇は総合芸術ですから、独りの力ではできません。ひとりでは皆の為に皆はひとりの為に、働き協力し合つて創り出す大事業です。金も手間も必要です。無理解な人からは、「芝居のまねなんかして何の役に立つ」と云われ、疲れるし気がもめるし全く大変な仕事です。

2 演劇には先ずすばらしく人間的な魅力があります。人間が、舞台上、人間の生活を表現したり、それを観て味わうこと、の中には単調な日常生活では見逃し勝ちな大きな緊張感や充実感があります。劇を観、演ずることによつて、自分が生きていくこの世というものを、改めて深い感動をもつて味返すことができません。若い魂は常に生々とした感動と、充実した人生を追求して行こうとします。しかしこの魅力には毒素もあり、

3 演ずる人達には、現実の生活ではなかく得られない賞讃の拍手や晴れがましさに溺れる危険があり、観る人達には、現実の息苦しい不満や苦勞をいつとき忘れるために、はややかな舞台に見とれ、劇の幕がおけると、元のつまらない日常生活へと溜息をついて戻る、といった阿片吸いのような気分がありそうです。



4 演劇をやれば、いゝ仲間が作れるのか。行動的、社会的な人間が形成されるのか。とふしぎがる人もいます。演劇は動く体を使つて、人間の生き方を表現します。【写真は昔話「人買い太郎兵衛」の一場面です】

5 あえて農村とは限らず、私達日本人には自己をのびのび表現する力が足りないようです。考え方や思っていることは、人間的で美しく立派なのに、いざ形に現わすとすると、鹿爪らしく形式ばつたり、可愛い孩子を「この馬鹿やろこい」と呼んで抱きあげたり、おかしくないのに笑つたり、歪んだ身体表現がほんとうに多い事が反省されます。なぜ素直な動作や話しぶりができないか、できなかったか、という理由は、歴史的、社会的に沢山の説が挙げられますが、この歪んだ表現の仕方を捨て、心情と身体が一致した素直な美しい人間本来の生き姿を取り戻すべきだ、と云う結論には異存がないでしょう。

かつて中国の名優梅蘭芳一行が来日しました。接待した東京の一行長は、一行の人達が大変美しい感じなり、(三三四段へ続く)

早くメートル法になれましょう

六月七日は計量記念日である。昭和二十六年六月七日に現行の計量法が公布されたので、これを記念して毎年いさゝかな行事をやっています。計量思想の普及向上に努めて来た訳である。

今年はおくもメートル法の普及宣伝に力を入れていく。これは既に周知の如く、来年の一月一日から商取引や証明にはメートル法を使わなければならないからである。

ところが我が国の現状をみると尺貫法だ、ヤードポンド法だ、メートル法だと

一件XXXXX

日俳中里支部

泉 芳 空魚籠の心に重き卵の花坂
 葉桜の一步近づく今朝の試
 紫 江 蕨野を歓迎僧の吹かれ行く
 紫 江 角唱の蔭に苦勞の親があり
 紫 江 句を取り入れる事は、一に
 結約の二声三声吊橋揺る、
 紫 江 生活に民俗文学として俳
 紫 江 句を取り入れる事は、一に
 紫 江 生活に民俗文学として俳
 紫 江 句を取り入れる事は、一に

6 県としては県内の各商店が遅くとも八月か九月頃には尺貫法からメートル法に切り換えられるように計画を進めて、各市町村、商工会議所や商工団体等へ協力を願つていられるのであるが、一般県民からも一日も早くメートル法に慣れていただきたい訳である。

一、換算をしないこと。
 一メートルは何尺になるとか、六十キログラムは十六貫だとか換算するからむづかしいからである。
 二、分量、分量で量の觀念をつかむこと。
 味増一貫目、醤油一升といえは、味増一キログラム、醤油二リットルといえは、油二リットルといえは、

7 この感想はよく耳にします。確かにそうでしょうが私達はあきらめずに自然な美しい動きをする日本人になりたいものです。

農村は美しい天然に恵まれているのに、昔からの暗い重い歴史が、そこに住む人間の生き方を歪めて、不自然な表現を持つ人を増やしました。ギョチない表現による生き方は、連鎖反応的に更に多くのギョチない形式的な暮らし方を作り出し、人々を不幸にした模様です。農村の演劇研究は、このような不幸な現象を内側から取り除く一つの手がかりを与えてくれる筈です。

8 演劇は人間の生活の眞実を追求する芸術ですから、劇の本質は模倣ではなく、創造です。何がより眞実なのか。何が人間にとつて善なのか。美しい心とは、どんな心なのか。そして私達人間がどう生きて行つたら幸せになるのか。を、仲間の間で行動と体を通して学ぶというすばらしい値打ちがあるこもつています。すぐれた劇を観る事も大切ですが、すぐれた劇を創り上げる、纏めるのは一層値打ちのある学習です。喜びと悲しみのつぼと云える程、激し

火の用心

心理学的な立場から見ても特に私たちの若い人は心と体の成長のバランスが取れず、スムーズな対人間関係を保てなくて苦しむ事が多いのですから、この時期に行う演劇の勉強がどのくらい有意義な経験になるか測り知れないものがあります。

「演劇、このやりのあるもの」

を研究し楽しむことが、私達みんなの幸せにつながる様に願ひ「山ゆりの会」たちの発展を望もうではありませぬか。